

主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	当第2四半期 売上高(実績) (億円)	対前年同期 増減率	2019年度 売上高(実績) (億円)	2020年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	491	4.8%	873	980	12.2%
グラクティブ錠	130	△2.3%	261	250	△4.1%
フォーガ錠	105	20.5%	181	225	24.6%
オレンシア皮下注	109	8.9%	198	220	11.0%
リバスタッチパッチ	41	△7.0%	85	75	△12.0%
パーサビブ静注透析用	39	11.9%	71	80	13.1%
カイプロリス点滴静注用	35	19.8%	60	70	16.7%
オノアクト点滴静注用	22	△11.2%	49	55	13.1%
オパルモン錠	29	△35.4%	83	50	△40.0%
プロイメンド点滴静注用	13	△1.9%	26	25	△4.8%
イメンドカプセル	15	△67.8%	81	25	△69.1%
オノンカプセル	12	△24.6%	35	25	△27.6%
リカルボン錠	15	△41.3%	47	25	△47.3%
当期新発売品	5	—	—	30	—

「オプジーボ®点滴静注」、新たな効能・効果の承認を取得

2020年9月に、抗PD-1抗体「オプジーボ®点滴静注」は抗CTLA-4抗体「ヤーボイ®点滴静注液」との併用療法におけるがん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High:microsatellite instability-High)を有する結腸・直腸がんに対する適応拡大の承認を取得しました。今回の承認取得により、国内において「オプジーボ®点滴静注」と「ヤーボイ®点滴静注液」の併用療法が承認された対象がん腫は3つ目となりました。

引き続き、本剤の適応がん腫の拡大を目指し開発を進め、未だ治療手段がなく困っているがん患者さんにご使用いただけるように取り組んでまいります。

BTK阻害剤「ベレキシブル[®]錠」新発売、および新たな効能・効果の承認取得

2020年5月に、「再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫」の治療薬としてブルトン型チロシナーゼ(以下、BTK)阻害剤「ベレキシブル[®]錠 80mg」を新発売しました。本剤は、当社が創製した選択性の高い経口BTK阻害剤であり、標準治療が確立していない再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫の治療薬として世界で初めて承認されたBTK阻害剤となりました。また、2020年8月には「原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫」に対する効能・効果の承認も取得しました。さらに、がん領域以外では「天疱瘡」に対する開発も進めています。



末梢COMT阻害剤「オンジェンティス[®]錠」新発売

2020年8月に、パーキンソン病患者さんに対する新しい治療薬としてカテコール-O-メチルトランスフェラーゼ(以下、COMT)阻害剤「オンジェンティス[®]錠 25mg」を新発売しました。オンジェンティス[®]錠は、新規の長時間作用型末梢COMT阻害剤で、1日1回の服用となることから患者さんの服薬に



に対する負担の軽減や服薬アドヒアランスの向上・維持に貢献することが期待されます。パーキンソン病は運動緩慢、振戦、筋強剛を中心とした運動症状を特徴とする進行性の神経変性疾患であり、本邦での患者数は約16.3万人と推計^{*}されています。

^{*}:厚生労働省大臣官房統計情報部。平成26年患者調査(傷病分類編)2014。

短時間作用型 β_1 選択的遮断剤「オノアクト[®]点滴静注用」、新たな効能・効果の承認を取得

2020年6月に、当社が創製・開発した短時間作用型 β_1 選択的遮断剤「オノアクト[®]点滴静注用50mg/150mg」（以下、オノアクト）について、敗血症に伴う頻脈性不整脈に対する効能・効果の承認を取得しました。敗血症は、感染症によって重篤な臓器障害が引き起こされる状態であり、過剰な交感神経の亢進などにより頻脈性不整脈となることがあります。本剤は、主に心臓に多く存在する β_1 受容体を選択的に遮断し、過剰な交感神経の亢進を抑制することで、敗血症に伴う頻脈性不整脈の治療に貢献できるものと期待されます。

二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ[®]静注透析用シリンジ」、製造販売承認を取得

2020年6月に、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症の治療薬「パーサビブ[®]」について、既に販売されているバイアル製剤に加え、新たな剤型として「パーサビブ[®]静注透析用シリンジ2.5mg、5mg、10mg」（以下、パーサビブシリンジ）の製造販売承認を取得しました。パーサビブシリンジは、シリンジ内にあらかじめ薬剤が充填されているために速やかな投与が可能になることから、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症の治療に携わられている医療従事者の方々の負担軽減、感染リスクの低減等に寄与できるものと考えています。

「オブジーボ[®]点滴静注」、韓国・台湾で新たな効能・効果の承認を取得

「オブジーボ[®]点滴静注」について、「根治切除不能な進行・再発の食道扁平上皮がん」に対する効能・効果の追加承認を2020年4月に韓国で、2020年6月に台湾で取得しました。韓国、台湾ではいずれも年間約2,600人が新たに食道がんと診断されており、新たな治療選択肢となることを期待しています。